

研究参加者への研究説明書とは、同一の内容にはならないはずです。違いを検討し、気を付けて作成してください。

西暦表記とする。

2020 年 月 日

倫理審査申請書に入力した研究タイトルを記入する。

研究説明書〔研究協力者〕

「特別支援教育の実習指導に関する一考察－実習生のグループ・インタビューを通して－」を次のとおり実施いたします。研究の目的や実施内容等をご理解いただき、本研究にご協力いただける場合は、別紙の「研究協力への同意書」にご署名をお願いいたします。なお、研究に協力されない場合、あるいは協力を決めた後に途中で辞退される場合においても、不利益を被ることはありません。

1. 研究者および指導教員（共同研究の場合は実施責任者）の氏名および連絡先

研究者氏名 武庫川一郎
所属機関 武庫川大学大学院臨床教育学研究科・修士課程
連絡先 住所：XXXX X-X-101
Email：xxxxx@mukogawa-u.ac.jp
電話番号：(XXX)XXXX-XXXX

指導教員氏名
所属機関
連絡先

- 研究者（実施責任者）が院生・研究生の場合、武庫川女子大学の住所や電話番号の使用不可
- 個人の連絡先は慎重に検討すること
- 指導教員の氏名、所属機関、連絡先は、必ず記載すること

電話番号：(0798)YY-YYYY

2. 研究の目的・意義

本研究は、特別支援学校教員を目指す学生の教育実習における学びの実態を明らかにすることを目的として、グループ・インタビュー調査を実施いたします。本研究の意義としては、特別支援学校での実習における学びと困難を実習生のことばで明らかにすることで、特別支援教員養成課程における指導の改善に寄与することができると思います。

本研究の目的および調査の種類（例：個別インタビュー調査、質問紙調査、観察調査など）と本研究の意義を、わかりやすく説明する。

3. 調査対象および

本研究では、特別支援学校での実習を終えて6か月以内の武庫川女子大学に在籍する大学生を調査対象として、最大5名が参加するグループ・インタビュー調査を実施したいと考えています。その理由は、特別支援学校での実習を終え、且つこれまでの本学の実習に関連した授業や指導内容についても記憶に新しいため、同じ経験を持つ学生が集まればより多くを語ってもらえると判断したからです。

研究参加者には、実習校や実習時期を尋ねた簡単な質問紙に記入をいただいた後、インタビューを開始し、実習中の嬉しかったことや困ったことなどの体験を話していただきます。インタビュー内容はICレコーダーで録音し、逐語録を作成して分析する予定です。

インタビューは1回（60分～120分程度）を予定しております。分析をするなか

で改めてお話をお伺いしたいことが出てきた場合には、研究参加者に追加インタビューをお願いすることがあります。研究期間は、2018年5月1日～2019年3月31日を予定しております。

4. 研究への協力について

そこで、特別支援教育実習指導を履修中の学生に研究参加を呼び掛けるためのチラシ配布と声掛けをさせていただきたく、その協力をお願いいたします。具体的には、学生のほとんどが集合している授業開始直前や終了直後、またはご指定頂いた時間に行うことに、許可を頂戴できれば幸いです。尚、チラシ配布と声掛けは授業に影響しないよう、5分以内で終える予定です。

5. 研究協力への同意と撤回について

研究の趣旨をご理解いただきご協力いただければと思いますが、協力するかどうかが慎重にご判断下さい。研究の説明を聞いてから、研究協力をお断りいただくこともできます。また途中で協力を辞退されることになっても、何ら不利益を被ることはありません。途中で協力を辞退される場合、それまでに収集したデータの取り扱いについては、各研究参加者の判断にゆだねることとします。

なお研究協力への同意を撤回される場合は、「研究協力への同意撤回書」を記入の上、武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科・修士課程・武庫川一郎までご連絡いただくか、下記の倫理委員会まで送付してください。

6. 研究への協力により期待される利益

本研究では、研究に協力していただくことにより、特別支援学校での実習における実習生の学びと困難を明らかになるだけでなく、特別支援教員養成課程における実習の事前と事後指導の在り方に関する理解が深まることを期待しています。また、学術論文として公表することを通して社会に貢献・還元されるだけでなく、研究参加者の学生自身が自らの実習をふりかえることによって、自己理解が向上する可能性があ

研究に協力してもらうことにより期待される利益を、わかりやすく説明する。

7. 研究への協力において予測されるリスクとその対応

研究協力においては特段のリスクは想定していませんが、インタビューで感情が高ぶった研究参加者において、その後の授業への出席や参加状況に影響が及ぶ可能性があるかもしれません。そこで、研究参加者には本研究の実施責任者のEmailと電話番号を伝え、調査終了後に意見や質問があればいつでも個別に応じることを伝える予定です。

研究参加者には身体的な危険が伴うことはありませんが、インタビューを進めるなかで過去のつらい経験を思い出し、感情的になる恐れがあるかもしれません。話すことがつらい場合、話したくないことが質問された場合には、無理に話さなくてもよいことを調査実施前に説明します。また調査中は各研究参加者の様子を見ながらインタビューを進め、必要に応じて申し出があればいつでもインタビューを中断すると説明する予定です。

研究に協力することで予測されるリスクとその対応も説明する。また調査に参加することにより、研究参加者に想定されるリスクとその対応も、すべて説明する。

研究成果の公表を行う媒体や場所を記入する。学会等で発表する場合、倫理審査申請書の4-2-3研究成果物（論文や発表）における注意点を反映し説明する。

8. 研究成果の公表の可能性

研究の成果は、修士論文としてまとめるとともに、日本特殊教育学会及びアメリカ障害学会にて発表を行なう予定です。論文や発表では、研究参加者の名前や実習先情報等により個人が特定できない表記にいたします。

ご希望があれば論文要旨等の資料をお送りいたしますので、遠慮なくお知らせください。

9. 守秘や個人情報の保護、研究データの取り扱いについて

本研究にて、研究参加者にお話いただいた内容や逐語録等を研究目的以外に用いることはなく、情報の守秘を固くお約束いたします。公的良俗に反する内容や警告義務が発生するような情報に関しては、研究者による守秘義務は必ずしも絶対ではありませんので、予めご承知おきください。個人情報を保護するため、ICレコーダーの録音データは、研究者が所有する鍵のかかる棚にて厳重に保管します。また録音データから直接起こした逐語録から、個人名を削除し、符号に置き換えるなどして分析用の逐語録を作成し、分析に用います。録音データと直接起こした逐語録は本研究終了と同時に、武庫川一郎の責任下、破棄いたします。

尚、別紙研究参加への同意書は、少なくとも5年、それ以降は研究者にて必要とする期間、保管いたします。

実施責任者の氏名を記入する。

10. その他必要事項について

研究参加者の本研究への参加と、特別支援教育実習の評価、さらに現在履修中の他の科目の成績とは無関係であることを、調査開始前に研究説明書を用いて説明します。また本研究に参加したことは、実習先並びに本学の実習指導担当教員等を含む実習に関与した方々には通知されないことも伝えます。さらに、インタビューにおいて他の参加者から聞いた話については守秘が義務づけられ、インタビュー終了後に他言をしないことを約束して頂きます。

11. 研究内容に疑義が

この研究の内容や
に連絡していただき

収集したデータの取り扱いは、以下の例を参考に記載する。

- 本研究終了と同時にすべて破棄する
- 回答済のアンケート用紙は本研究終了と同時に破棄するが、数値化し電子化されたデータは本研究終了から5年間保管する
- 録音データや逐語録などの電子化されたデータは、本研究終了から5年間保管する

〒063-8558 四呂市池開町 0-40

Email : rinkyo@mukogawa-u.ac.jp

以上

その他に研究協力者に知らせておく必要がある事項について、簡潔に説明する（例：本研究への参加と成績評価は全くの無関係など）。ない場合は、「特になし」と記入する。